vol.017



■ 特集:急性期医療体制の充実をめざして

- ・病院救急車新規導入、救命救急士の拡充。
- ・HCU (High Care Unit) を開設。
- front line:甲賀美智子理事長/甲賀啓介院長
- information: メディカルフードセンター誕生。
- community lounge:新医師紹介 etc....
- spirit of swift turtle:地域連携センター自己紹介 etc...

front line

技術革新とデジタル化、イノベーション。



社会医療法人 駿甲会 理事長 甲賀美智子

先日、徳島県にある大塚美術館に行き、3日間歩き続けて、世界の名画(セラミック製の実物そっくりのコピー)を見てまわりました。時節柄、興味をひかれたのはオランダの画家ブリューゲルの「死の勝利」という絵でした。世界の人口の1/6を失ったというペスト禍の中描かれた絵で、多くの骸骨が荷車の中に乗っている様が描かれており、まさしくペストによる死を恐れていたことをうかがわせる絵画です。

以前に見たときはただ気持ちの悪い絵だと思ったのですが、今回は、強く共感しました。全世界がコロナ禍に襲われており、世界の情勢も偏見や差別、格差があらわになり、世界中が不安定で危険をはらんでいます。また医療の脆弱性があらわになり、日本の人口1,000人当たりの医師数はドイツの半分で、G7では最少である事も明らかになりました。その中にあって、地域医療としてできることは何かを改めて考えさせられ、技術革新とデジタル化、イノベーションによるスタッフの労働改善をめざすという決意を新たにしました。救急やHCUの運営を充実させ、地域の方々の命を守りたいと職員一同熱く思っています。

医療の質を向上させ、コミュニティーに貢献

志太榛原地区は、総人口約47万人の地方都市ですが、 総医師数の地域偏差値は39と、県内でも際立って医療 資源に乏しい地域です。同医療圏内には基幹病院も存 在しておりますが、急性期や急性期以後の医療提供能 力は長年にわたり低い状態で推移しております。

当院はこれまで、当医療圏で特に要望の高い、循環器・整形外科・消化器疾患の診療体制を強化してまいりました。全療養病床、回復期病床の一部を一般急性期に転換し、二次救急指定を取得。24時間365日、緊急カテーテル治療、緊急手術に対応すべく、スタッフの増員、設備増設等の体制整備を進めてきました。また高齢化により、搬送患者さんも重症化しており、適切な医療提供を目的としたHCUを創設いたしました。

今後も更に医療の質を向上させ、その密度を上げることで、"コミュニティー"に貢献していきたいと考えております。



コミュニティーホスピタル甲賀病院院長 甲賀 啓介

information

安全で安心のフードライフを提供。1万食以上の生産能力を誇るセントラルキッチン。 MEDICAL FOOD CENTER Swift Turtle Co. の誕生です。

健康であり続けること。適度な運動、睡眠、そしてなによりも安心で安全な食事です。5月1日、院外調理施設「社会医療法人駿甲会 MEDICAL FOOD CENTER Swift Turtle Co. (メディカルフードセンタースウィフトタートルカンパニー)」が竣工しました。同施設は1万食以上の生産能力を有する調理・盛り付け一貫型のセントラルキッチンです。

さらに社会医療法人駿甲会では、衛生的で安全な食事サービスの提供を継続するため、新しい調理システムである「ニュークックチルシステム」を導入しました。今後は、ニュークックチル方式が有するさまざまなメリットを具現化し、これまで以上に質の高い、安定した食事提供を目指していきます。

【ニュークックチル】

加熱調理した料理を30分以内に冷却を開始し、90分以内に中心温度3℃以下まで冷却して、チルド状態のまま盛り付けを行い、食事を提供する前に器ごと再加熱。加熱終了から提供までの時間が短く、再加熱後に人の手が加わることがないので、食中毒などのリスクを低減し、より高い安全性を確保することができる新しい調理システムです。



ふじえだミキネで健康講座を初開催。 皆さんの意識の高さに感銘。



8月4日、藤枝駅前クリニック 開設予定のふじえだミキネ2階で、 『第1回 藤枝駅前 健康講座』を開催しました。記念すべき第1回を担当したのは、鈴木直樹医師(コミュニティーホスピタル甲賀病院整形外科)。"背骨と神経の気になる病気"という演題で講演しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、今回は限定20名の予約制での開催となりましたが、来場された皆さんは、真剣に講座内容に耳を傾けていました。講演終了後の質疑応答では、様々な質問が寄せられ、皆さんの健康に関する意識の高さを感じました。お越しいただきありがとうございました。



当院 渡邉医療技術部部長が表彰。 より一層の活躍に期待してください。

渡邉学医療技術部部長が、静岡県薬剤師会より「会長表彰」を受けました。静岡県薬剤師会は、薬剤師約2,500名余が加入している職能団体です。薬剤師は、医療の質の向上および医療安全の確保の観点から、最適な薬物療法を提供する医療の担い手としての役割が期待されており、薬学的管理に基づいた助言等を行うなど、患者の薬物療法全般の安全管理者として活躍しています。

「静岡県薬剤師会会長表彰」は多年にわたり薬事薬業 の振興に貢献されるとともに、会務の推進に大きく尽力 された会員に送られる名誉ある表彰です。

渡邉医療技術部部長は、平成20年より静岡県病院薬

剤師会の理事・学術部副 部長を務め、令和2年4 月から同会の常任理事・ 学術部長として、県内外 の薬剤師の指導・育成、 学術・研修活動の振興に 活躍。今後も地域住民の 皆さんの健康を守るため に、より一層活躍すること が期待されています。



救急外来 24時間 365目

近年、医療機関内における救急救命士の役割が大きくなっています。甲賀病院でも地域連携センター内に救急搬送室を立ち上げ、近隣の介護施設やクリニックとの連携の強化を目指しています。

消防への救急要請は年々増加傾向です。そうした中、施設間搬送は救急隊の大きな負担となっています。甲賀病院救急搬送室では消防の救急隊を呼ぶほどではないが、御家族だけでは病院に連れて行くことができない患者さんなどを積極的に搬送し、消防の負担軽減に繋がればと考えています。

現在救急搬送室には救急救命士が3名在籍し、日中の患者搬送を行っています。7月より新たな救急車を導入し、より搬送がスムーズになるよう、日々努力して参ります。



病院救急車新規導入、救急救命 士の拡充。よりアクティブになった患者搬 送体制。





7月に新規導入された病院救急車。電動リフトを装備しながら、ストレッチャー搬送、車いす搬送に対応 新型コロナウイルス感染症に対しても、ストレッチャー部分を隔離するカーテンを備えています。

▶地域の急性期医療のニーズの高まりに応えるために

コミュニティーホスピタル甲賀病院は、急性期医療 に力を入れており、経験豊富な常勤医が多数在籍して います。

平成29年には循環器内科医が赴任し心臓カテーテル室を立ち上げ、緊急を要する心筋梗塞患者に対して緊急カテーテル治療にも対応可能となりました。

平成30年4月には、志太榛原医療圏の「病院群輪番制病院」として二次救急医療体制に加わるとともに、救急外来診察室、中央処置室を拡張・整備し、入院治療を必要とする重症患者の休日・夜間受け入れをスムーズに行い、充実した医療の提供ができるような体制を整えてまいりました。

令和元年秋の地域連携部門での話し合いで「急性期 医療を拡充している当院において、これまで以上に患 者さんのお役に立つため、救急救命士を活用したらど うだろうか」という意見が出たことが、当院に救急救 命士を配置するきっかけとなりました。

同年11月には、一般財団法人日本救護救急財団・渡部専務常任理事にお越しいただき、病院に救急救命士を配置し、活動を行うメリットについてプレゼンテーションをしていただき、当院に救命士を配置する方向性が固まりました。

▶受け入れ体制の拡充を積み重ねて

準備期間を経て今年3月から救急救命士の配置を開始(一般財団法人日本救護救急財団への業務委託形式)。 5月1日から、病院採用の救急救命士を1名配置する とともに、5月13日から、消防救急に比べて緊急性が 低い患者さんの搬送を開始しました。

搬送は、法人関連施設(介護老人保健施設等)の入 所者さんが体調不良になったケースから開始し、転院 患者さんの搬送や、開業医からの依頼で患者さんのご 自宅への搬送出動等、少しずつ事例を積み重ねてきま した。

5月下旬からは、土・日・祝日も含めた毎晩の夜間 帯にも救急救命士の配置を開始するとともに、運転手 の勤務を3交代化することで搬送体制の完全24時間化 が整いました。

この7月には病院採用の救急救命士を1名増員するとともに、新しい病院救急車を導入しました。この新病院救急車(ベース車両:トヨタハイエースウェルキャブタイプB)は、赤色灯、スピーカー、サイレンといった標準装備の他、酸素ボンベ固定具、点滴フック、100V電源、ストレッチャー、電動リフト、車椅子固定装置などを兼ね備え、患者さんの容体に応じてストレッチャー搬送・車椅子搬送どちらにも対応可能となって

いることが大きな特長です。さらに、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応として、ストレッチャー部分を隔離する感染対策用のビニールカーテンを備えています。

▶ソフトとハード両面の充実で 24 時間 365 日の体制

この新救急車の導入に合わせて、近隣のクリニック・ 介護施設向けの"救急ダイヤル"を開設しました。 「消防救急車を呼ぶほどの状態ではないが、今後が心配」 「夜間だから、明日まで待つべきか迷っている…」 「こんな容態だけど、すぐに受診すべきかどうか」 という時に、クリニックの医師・介護施設の看護師等 から電話を受け、搬送に出動しています。さらに8月 には、消防救急隊での勤務経験がある救急救命士が1 名増員となり、人員配置がさらに手厚くなってきています。

当院では今後も、地域の皆さんの安心、安全のため、 24 時間 365 日の救急外来、患者搬送体制を充実させて いきます。



新たな病院救急車導入でよりアク ティブに対応が可能となりました



★救急救命士はプレホスピタルケア(病院前救護) に特化した国家資格です。

community lounge

病院には様々な職種のスタッフがたくさんいます。コミュニティーホスピタル甲賀病院は616名(4月現 在)のスタッフを数える大所帯となりました。それでもそれぞれの職種、スタッフがプロフェッショナル として、患者さんひとり一人に向き合っています。ここでは院内のスタッフやイベントを紹介していきま す。まずは、新しい医師のご紹介です。









■ 鈴宮 淳司(ずずみや じゅんじ) 副院長 / 血液内科



生まれも育ちも九州の小 倉(現・北九州市)です。宮 崎大学、福岡大学、島根大 学で血液内科と腫瘍内科を 中心に診療・教育と研究を してきました。血液内科を 始めたところです。一人で すので大きな病院のような 治療はできませんが、でき る範囲で抗がん薬治療を始

また、島根大学在任中は、腫瘍・血液内科の診療だ けでなくがん登録やがん相談などの部署の管理やキャ ンサーボード(Cancer board:多職種の方々とがんの 最適な治療を決定する検討会)を行ってきました。当 院でもこのような検討会を開催し、血液内科だけでな く腫瘍内科の診療にも貢献できるようにと考えており ますので、よろしくお願いします。

■ 荒田 真子(あらた しんこ) 消化器内科

2020年4月より消化器内 科スタッフとして勤務させ ていただいております。消 化管·胆膵内視鏡診断治療 全般、および予防内科的診 療、そして、ADLを落とさ ない化学療法による消化器 癌治療の伴走・消化器難病 の治療のお手伝いをしたい、 をモットーに症例経験を積 み重ねてきました。



また自己免疫性疾患・肝臓治療・内分泌疾患とクロ スオーバーする総合内科診療も得意としております。 先々は希少がん・神経内分泌腫瘍のスペシャリストに なりたいと日々研鑽しております。

義理の父母が焼津在住ですので、この焼津・駿府地 方を自身の第二の故郷として親身に対応していきたい と思います。

■ 中島 太(なかじま ふとし) 麻酔科 / ペインクリニック



当院の手術件数は、2017 年度が263件、2018年度が 414件、2019年度が663件 と順調に増加しています。 非常勤麻酔科医師に御協力 いただきつつ、熟練の外科 系各科医師および優秀な手 術室スタッフとも密に連絡 をとり、柔軟な手術室運営 を行っています。

私は焼津出身で高校2年

生まで地元の高校に通っていました。ここ焼津に戻っ てきましたので、地域の皆様に安全で、患者満足度 の高い医療を、迅速に提供するように頑張ります。

■ 鈴木 直樹(ずずき なおき) 整形外科

令和2年4月から甲賀病 院に入職いたしました。脊 椎外科整形外科を担当して おります。

今まで、広く脊椎脊髄領 域の外科治療を経験してま いりました。常勤の先生方 とともに経験を生かし、脊 椎脊髄疾患の外科的治療を 行ってまいりたいと考えて おります。



コミュニティーホスピタル甲賀病院

の医師はコチラからどうぞ ⇒



摂取カロリーと消費カロリー

今年の夏は特に暑い日が続きましたね。夏も去り新 しい季節がやってきていますが、もう夏でカラダはク タクタ。偏食的になったり、運動することが少なくなっ たりしていませんか? 日頃から食事を気にしたり、運 動を行ったりすることは大切ですが、なかなか難しく 思っている方も多いのではないでしょうか?

摂取カロリーと消費カロリーについて少し考えてみ ましょう。

摂取カロリーは、年齢や性別、活動レベル等によっ て差がありますが、普通の活動レベルの方は30~49 歳までが男性 2,650kal·女性 2,000kal、50~69 歳までが 男性 2.450kal·女性 1.900kal、70 歳以上は男性 2.200kal・

女性 1,750kalが目安となっています。

消費カロリーには、基礎代謝 (60~70%)・生活活 動代謝 (20~30%)・食事誘発性熱産生 (10%) がある と言われています。

食べ物から摂取したエネルギーがバランス良く消費 されていることが良い状態です。しかし、摂取エネル ギーを上回ると使われなかったエネルギーは脂肪とし て体に蓄積されます。

消費カロリーの多くが基礎代謝(呼吸や体温維持、 内臓の働き等)ですが、生活活動代謝は歩いたり、食 事をしたり、家事や仕事を行ったりとあらゆる活動に よるものです。立って作業を多くしたり、階段を使う ように心掛けたりして普段の動作を見直し、摂取カロ リーと消費カロリーのバランスに気をつけましょう。



チーム医療はまるでジグソーパズ ルのようです。ひとつのピースも 欠かすことができません。医療技 術部、看護部、リハビリテーショ ン、事務部などなど皆様とスタッ フの交流の場です。



新型コロナウイルス感染症の検査

昨今、新型コロナウイルス感染症が全国的に再拡大 傾向となり、予断を許さない状況が続いています。治 療薬やワクチン等の対策が急がれている中、感染者割 り出しのための検査は非常に重要となってきます。

現在、新型コロナウイルスに対する検査は、報道で も毎日のように耳にする、ウイルス遺伝子を特殊な装 置内で増幅し、感染の有無を調べる「PCR法」、新型 コロナウイルスに特徴的なタンパク質を測定する「抗 原検査」、感染後に人体内で作られるタンパク質を測定 する「抗体検査」の3種類があります。

抗体検査に関しては現在の感染を証明する根拠に乏 しく、抗体保有状況を確認する調査目的の検査として の活用が期待されています。

抗原検査は、インフルエンザ抗原検査のように小さ なキットを用いた検査が5月半ばに国内で承認されま した。PCR 法より測定感度は落ちるものの、機器を用 いる必要がなく、様々な場面での活用ができ、効果 的な検査実施が期待されます。

感染拡大当初は PCR 法しか選択

肢のなかった新型コロナウイ ルス感染症検査も、徐々に 検査法が確立され、体制 が整いつつありますが、 まずは3密を避け、普 段の生活から感染拡大 防止の意識を強めて・ この未曽有の事態を 乗り切りましょう。



食欲の秋。まずは、コレ。

2019年と2020年は甲賀病院栄養科は変革の年でし た。2019年4月、新調理システム「ニュークックチル」 を採り入れ食事の安全・衛生を強化、2020年5月には 吉田町に法人調理施設「MEDICAL FOOD CENTER STCo.」を開設し、より質の高い食事の提供を目指し て取り組んでいます。

さて、皆さんは秋といったら何を想像しますか? 栄 養科的には、やはり"食欲の秋"。秋の味覚きのこを使っ たレシピをご紹介したいと思います。

きのこは低カロリーで食物繊維やビタミンB類など が豊富に含まれるほか、免疫力を高めると言われてい るβ-グルカンという多糖類の作用にも注目が集まっ ています。

<きのこの当座者>

★材料

きのこ: 合わせて 500g

(しいたけ、なめこ、ぶなしめじ、えのきたけなど2~3種類)

しょう油:大さじ3 みりん:大さじ2

赤唐辛子(種を抜く):1本 酒:大さじ2

★作り方

■しいたけは石づきを除いて薄切りにする。 なめこはさっと洗う。

しめじは石づきを除いて小房に分ける。 えのきは石づきを除いて長さを半分に切る。

2 鍋に1のきのこ、赤唐辛子、しょう油、みりん、酒 を合わせて中火で炒りながら汁気がなくなるまで煮て

そのまま食べてもよし、酢飯 に混ぜてきのこ寿司に、青菜や 大根おろしに混ぜて和え物にす るなどなど、いろいろと活用で きます。









知識と実践を積み重ねながら、進化を続ける、 コミュニティーホスピタル甲賀病院の救急医療体制。

当院はここ数年、地域の急性期医療へのさらなる貢献のため、医師数の増加・診療科数の増加を図ってきました。また救急診療の強化も行っており、2018年4月より二次救急医療機関に指定され、救急車搬送数や救急外来受診者数も増加傾向にあります。この結果、手術数および重症患者数が増加してきています。そこで、これまで術後の患者さんや重症の患者さんは、一般急性期病棟の個室で対応しておりましたが、より安全に、より高度な医療・看護を提供するため、HCUを開設することにしました。

HCU とは High Care Unit (ハイケアユニット) の略であり、重症患者の救命・治療に努める病棟のことで、このたび A3 病棟に HCU 5 床を開設しました。

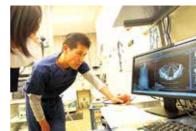
この HCU において、具体的には、心筋梗塞や心不全などの循環器疾患、肺炎・COPD (慢性閉塞性肺疾患)・呼吸不全などの呼吸器疾患、血液透析を必要とするような腎臓疾患、消化管出血などの消化器疾患をはじめとして、敗血症、ARDS (急性呼吸窮迫症候群)、DIC (播種性血管内凝固症候群)、ショック、重篤な代謝障害 (肝不全・重症糖尿病など)、心肺停止蘇生後などの重症病態に対して、各科の垣根を越えて、患者さんの救命とその後の社会復帰に全力をあげて取り組みます。

また装備面では、呼吸心拍モニターや人工呼吸器、 血液浄化装置、補助循環装置、除細動器なども充実 しており、これまで以上に安全・安心な医療が提供 できるようになりました。

HCU の看護体制は一般病棟 (10 対 1) に比べ、手厚い 4 対 1 となっていることも特徴のひとつといえるでしょう。医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士・言語聴覚士、事務員がひとつのチームとなり、患者さんの回復に向け、日々カンファレンスを行い、多方面から全人的に患者さんを支える体制を整えています。また、全身麻酔の術後については、術後合併症が起こりうる患者さんに対して、術直後の集中治療管理を引き受けていますので、これまで以上に安心して手術を受けていただけるでしょう。

私たちは、地域の方々により健康な生活を送っていただけるように、コミュニティーホスピタル甲賀病院に受診して良かったと言っていただけるように、あらゆる努力を行っていきます。笑顔でHCUを退室されるその日まで、病気と闘う患者さんのそばに常に寄り添い、ともに闘い、悲しみ・喜びを分かち合うことのできる医療を目指していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

message



地域の急性期医療の 底上げのため、ここ数 年、コミュニティーホ スピタル甲賀病院では 急性期医療の体制構築 に向けて実践を積み重 ねながら、常によりよ い急性期医療の在り方

を模索してまいりました。今号でご紹介している、 新規の病院救急車、そして救急救命士の増員もその 例となります。そんな中、今回の HCU の立ち上げ は私どもにとっては、必然の流れの中での開設とい えます。 HCU は病院によってその位置づけは少々異なりますが、本院では大きな手術後の厳密な管理を要する患者さんや、救急搬送された重篤な疾患に対応する点で、ICU(集中治療室)に近い病床です。状態が不安定な患者さんでも、安心して医療を受けていただくための大切なユニットです。複数の科が連動して、入院から退院までの行程を安全で安心に、確実に過ごせ、また退院後に入院前のいわゆる QOLを下げることなくすごせるようになるにはどうしたらよいかまで考慮したケアを実現させていきます。

甲賀 啓介院長

||駿甲会スピリッツ



W spirit of swift turtle

社会医療法人 駿甲会には当院を中心に介護老人保健施設、訪問看護ステーション、デイケア、グループホー ムなど多岐にあたる関連の施設があり、トータルで地域のメディカルケアを支える努力をしています。そ の精神は全施設一貫し続けています。

we are

地域連携センター 1人1人の患者さん・利用者さんの思いを大切にしながら。。。

平成12年4月の診療報酬改定で急性期病院と 後方支援病院の連携が評価されたことが契機とな り、「私たちは、病期・病状に応じた患者さん中心

の医療を推進するために、地域の 医療・福祉関連施設との連携体制 を構築・強化し地域に貢献するこ とを目指します」という理念のも と、平成18年に地域連携センター の前身となる地域連携室が開設さ れました。

令和2年6月には鈴宮淳司副院 長がセンター長に就任するととも

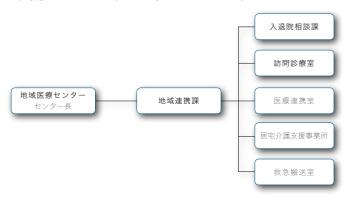
に組織改編を行い、地域連携センターは新たなス タートを切りました。現在の地域連携センターの 組織図は、以下の図のようになっています。

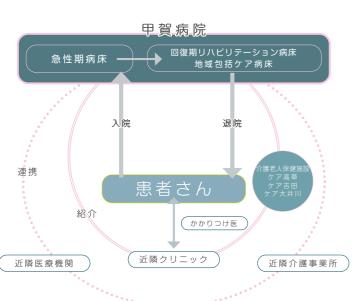
地域包括ケアシステムが深化していく中で、地 域連携センターの役割はますます重要になってい くと考えられます。

> 基本方針である「安心・信頼・良質」 の病院作りに貢献できるよう、今後も 医療・介護・地域との連携を推進して いきます。

患者さんや利用者さんにとっては、 担当となる相談員や介護支援専門員と の出会いが、その後の人生を大きく変 えることがあります。当センターでは、 これからも1人1人の患者さん・利用

者さんの思いを大切にしながら、自立支援に向け た相談援助業務を行うことを心がけていきます。







介護老人保健施設 コミュニティーケア 高草

地域の信頼される施設に成長した、駿甲会初の介護老人保健施設。 延べ利用者数(通所リハ)、42万人! 私たちを支えてくれたのは皆様の笑顔です。

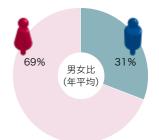
高草山の麓、梅や桜など多くの花木に囲まれた緑豊かな環境の中に位置し、今年で開設25年目を迎 えました。平成12年4月から始まった介護保険制度以前の平成8年4月に、駿甲会で最初に開設した 介護施設として、入所定員84名、通所リハビリテーション定員16名でスタートしました。

通所リハビリテーションは、地域のニーズにあわせて定員を増やしてきましたが、通所利用者数で 20万人を達成した平成22年に、現在の利用定員である115名になりました。開設から令和2年3月ま でに、通所リハビリテーションでは延べ42万7,075名に利用していただいております。

これからも、地域で介護を必要とする高齢者の皆さんに安心して利用していただき、地域に信頼され、 より良いサービスを提供できる施設を目指し、職員一同さらに団結を強め、前進していきます。



入所稼働率(%)		95.24
通所リハ平均利用者数(人)		63.13
平均介護度	入 所	3.4
	通所リハ	1.8



入 所:定員84名(短期入所含む)/ 認知症棟あり

通 所:定員115名

スタッフ: 医師、薬剤師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、 介護支援専門員、支援相談員、管理栄養士、事務員

所在地:〒425-0005 静岡県焼津市方の上358-1

電 話:054(627)5588





藤枝駅前クリニック

Mikine 2階 (054 - 645 - 5545

内科・専門外来

-般内科・循環器・消化器・糖尿病・腎臓

・神経・血液・睡眠時無呼吸症候群



整形外科 ペインクリニック リハビリテーション





健康診断 予防接種 訪問診療 オンライン診療可

時一間 療=

9:00 \sim 12:00 14:00 \sim $\frac{20:00}{\text{2}}$

休診日:日曜日、祝日、土曜日午後

